

【「あったかふれあいサロン」の活動と、個人情報や交通手段についての問題】

F: 私は民生委員をしていますが、社会福祉協議会でも活動させていただいているので、高齢者の方たちとの関わりが多いです。そういったことから今日は、高齢者の方への支援のことをお話させていただきたいと思います。鏡地区は、高知市はりまや町から西北に11Km入ったところにあり、平野が非常に少なく、急傾斜地に家があり、集落が点在しています。地区の中心の鏡庁舎から主だった4路線が、手のひらの形で点在する集落に伸びており、そういった地域で高齢者が生活しています。

鏡地区では、一人暮らしの方が非常に多く、寝たきりにならないようにと「あったかふれあいサロン」という運動を始めています。拠点は鏡中学校で、現在も「あったかふれあいサロン」を月1回開催しております。「あったかふれあいサロン」は、健康な方はもちろん参加していただいておりますが、地域間で距離があるので、車の運転が出来る方とか、乗り合わせてくる事が出来る方、徒歩で来られる方に参加していただいております。現在、平均20名ぐらいおいでいただいております。対象者は、高齢者はもちろん、限定しないでどなたでも参加できますということで、始めてみました。

最初は、子育てをされている方がお見えになることは少なかったのですが、保健師さんのほうから「あったかふれあいサロン」で、子育てされている方も一緒にやってみたらというお話があり、高齢者の方もそのことによって元気になれるんじゃないかということもあって始めてみました。そうすると、なかなか盛況で、地域で年間に7、8名の出生ですが、その方が全員参加していただけるような場所になっています。地域外の方も1名おいでいただけるようになって、すごく今の状況はいいです。

民生委員では地域の子育て支援をしていこうということがありまして、赤ちゃんが誕生したときに5千円の商品券を持ってお伺いし、顔つなぎをしています。それ以降、何かあればご相談をしていただける関係を築こうということで、ずっと続けています。

それから、中学生から、高齢者（70歳以上の方）の方にあてて、暑中見舞いと年賀状を送る活動もしています。地域の外へ出られている方、施設へ入られている方を除いて350名程度にお手紙を出させていただいております。一人暮らしの方や高齢者世帯の方は、お手紙が届くことが少なく、寂しい思いをされているということですので、少しでもそれが喜びに変わればと思っています。そういったことで交流が少しでもあれば、高齢者の方が元気になっていただけるのではと思います。

活動の中での課題ですが、交通手段が一番のネックになっています。また、先ほど言ったお手紙を出す際にも個人情報の壁があり、地区長さんに確認を取って、お手紙を出させていただいております。赤ちゃんの情報も、本来は入れていただけませんが、お腹の大きい方でしたらすぐに目に付くので、その方のところへ5千円の商品券を持っていくようにしています。ある意味、個人情報というのは、みんな守られているんだけど、守られ過ぎてかえって不便という面もあると思います。

交通手段については、誰かに「あったかふれあいサロン」まで乗せてきてもらう対応も、

私たちがどうこう言える立場ではないですが、何かあった時の責任について問題があるので、その辺りもネックになっています。鏡地区でも奥の端までバスが行くということはありませんので、移動手段は車です。車が運転できなくなったらその時点で、ご家族の方に頼るか、近所の方に頼るしか移動手段がないので、そのことが一番のネックになっているところですよ。

今後の取り組みですが、子育てサロンをする中で、育児不安を抱えている方、ストレスがたまっている方も多いと思いますので、サロンに来て高齢者と触れ合うことによって、また、同じ子育てをする方たちと話し合うことで、少しでも解消できたらと思っています。それと高齢者の方々も、小さな子どもさんを目にすることができて、お話をすることができただけですごく喜びになると思います。そういったことも踏まえて活動を続けていきたいと思っています。

知事： まず活動に心から敬意を表します。高齢者の方が子どもさんを見られると、本当元気になられたそうですね。「あったかふれあいセンター」でも高齢者の方と、お子さん、子育て中の方が一緒にやっているの、引きこもりがちの高齢者の方も、子どもがいるんだらというので、来られたりがあるようで、これを聞いて私もうれしく思いました。

それで、私が座談会やその他の意見交換で各地域を回っていて、声として聞いたのが、子育てのサークルに対するニーズで、それは非常に高いみたいですね。子育てサロンというのは、共働きが特に多い高知県のようなところには、大事なことだと思っています。それから、高知県でも核家族化が進んでいますから、そういった状況の中から考えても、大事なことだと思っています。「日本一の健康長寿県構想」を今後考えていく中で、子育て支援をもう少し考えてみるべきじゃないかと思っています。ちなみに私は、全国知事会で「子ども子育て新システムプロジェクトチーム」のチーム長なんです。そういうこともあって、子育てのことをいろいろと勉強させていただいています。子育て支援をしていくことが、保護者の方のバックアップにつながったり、幼児教育の充実につながれば、生涯にわたっていい効果を及ぼしていくということになると思います。今のお話を伺ってそこに対するニーズが大きいと感じました。

また、交通手段の話については本当に課題だと思います。あったかふれあいセンター（への往復の手段）についても課題ですが、中山間の生活を支えるという観点からしても本当に重要で、買い物に行く、病院に行く、それから自分の作った作物を運んでもらって売ること、現金収入につながられるといった仕組みができればと思っています。中山間地域の手のひらみたいな地形のところでの交通手段をどうするかというのは、もう一段システムを考えたいと思っています。多分、なかなか採算の合わない世界だと思いますが、一定行政としても手を足していきながら、他方で二種免許との問題など、難しい問題も出てきますので、どういう仕組みを作ればうまくいくか考えていきたいと思っています。

F: 交通手段の面では、本当にお願いするしかないのですが、民生委員や他の方にも協力、締結していただいている見守り協定というのがあって、独居の方の見守りをしているんですが、家と家との距離がすごくあり、見守りについても毎日出来るわけではないので、独居の方は本当に不安だろうと思います。だから相互見守りというかたちで、独居の方が独居の方を相互で見守りをしていく、昔で言う隣組のような活動はすごく大事になってくると思っております。